



明るい色調のモダンな外観は大型マンションのようで、周辺の環境とも違和感がない。敷地内の南部坂側には桜の古木が並び、春の景観は見事である。



1



2



3



4



11



12



13

# ありすの杜 南麻布

高齢者保健福祉施設



5



6



7



8



9



10

- 1 北棟の屋上スペース。高台の地らしい見晴らしのよさで、眼下には有栖川宮記念公園の緑が、晴れた日には遠くスカイツリーも見える。足湯用の浴槽が備え付けられている。
- 2 日常生活に必要な心身の機能の維持回復訓練を行う、通所リハビリテーション。理学療法士、作業療法士が訓練をサポート。
- 3 北棟の理美容室。週に一度の頻度でプロによる理容のほか、ネイル・エステなどの美容も行われている。
- 4 ショートステイや通所リハビリテーションの利用者のための送迎バス。そういえば、最近、麻布の町中でよく見かけるようになった。

- 5 南棟のLDK。スタッフは制服がなく私服を着用しており、まるで普通の家で暮らす家族のような雰囲気だ。
- 6 各ユニット手前の共用スペース。入居者どうしの交流パーティーも開催される。黄色と緑の椅子は、長時間座っていても疲れにくい設計。
- 7 とあるユニットの入り口。南棟ではユニットごとに名前をつけている。このユニットのモットーは「人生は楽しむためにある」。よい言葉である。
- 8 北棟は有栖川宮記念公園に面しており、LDKをはじめ各個室からも緑がいっぱいに見えるのが魅力だ。
- 9 南棟にあるケアハウスは、身の回りのことを自分でできる方が対象の自立型と介護の提供を受けられる介護対応型がある。自立型の部屋は、ミニキッチン、ユニットバス、トイレ、洗面室があり、介護対応型は、ユニットシャワーの部屋もある。
- 10 版画ややきものが飾られた廊下は、和風旅館のような佇まい。

広尾駅から徒歩7分ほど、南部坂をのぼりきった有栖川宮記念公園の向い側に、「ありすの杜 南麻布」がオープンした。北棟、南棟それぞれ2つの社会福祉法人が運営し、特別養護老人ホームをはじめとする多様な施設を備えた、都内でも最大規模の高齢者保健福祉施設である。その詳細を取材した。

北棟、南棟ともに、それぞれ高齢者のニーズに応じたケアが行われている。その中心である特別養護老人ホームは、各棟100床あり、ユニットケアを採用している。ユニットケアとは、入居者を10名前後に分けて一つのユニットとし、それぞれに介護スタッフを配してグループケアを行うというもの。入居者各自の個室のほかに、共有のLDK（リビング・ダイニング・キッチン）が置かれ、一つの家族のように暮らす。少人数ごとにスタッフが生活支援することで、より家庭的な雰囲気の中で生活することができるという。

いずれの棟も、LDKは窓が大きくとられて明るく開放的。入居者やスタッフが選んだ絵画や調度品が置かれ、アットホームで個性的な雰囲気であった。時にはユニットごとに食事を持ち寄って、パーティーを行うこともあるという。個室ゾーンのほうを見ると、広い幅の廊下に木調の扉が並び、モダン和風のイメージである。

そのほか、南棟は、ひとりで暮らすのに不安のある方を支援する「ケアハウス（自立型・介護対応型）」、短期滞在型の「ショートステイ」、認知症の方のための「グループホーム」や「認知症デイサービス」が行われている。北棟のほうは、「ショートステイ」、病院退院後に理学療法士や作業療法士にリハビリや介護を必要とする方を対象とした「介護老人保健施設」、「通所リハビリテーション」がある。

また、「ありすの杜 南麻布」が目指すのは、高齢者ケアだけではない。施設が特別な存在と見られるのではなく、自然な形で地域と一体化させたいとの意向から、1階にはだれもが利用できるカフェテラス、トイレ、セミナールームなどを設置。正面の門扉は開かれており、すでに多くの人の利用があるという。有栖川宮記念公園への散歩の途中に立ち寄れる、麻布の、新たな憩いのスポットの誕生である。

# 麻布びと



「コミュニケーションのツールとしてガラスの作品を作っています」  
ガラス造形作家 狩野智宏さん (32)



元麻布二丁目。緑豊かな高台から静かに都市景を見渡せる町。麻布水脈の象徴「がま池」や西町インターナショナルスクールなど歴史と新しさが共存する憧れの住宅街だ。ぽつぽつと洗練された個性を主張する建築物がある中、ひと際目を引くのが大きく「GLASS」と書かれた大きなステンレス扉の白くて四角い建物。ガラス造形作家狩野智宏さんの工房であり、ここでガラス工芸教室を主宰されている。幻の技法と呼ばれるパート・ド・ヴェールによる独創的な作品を数多く発表されている狩野さんは室町時代から江戸時代末期にかけておよそ400年間続いた最大の日本絵画の流派「狩野派」の系譜である。

## 無心になることが創造することの根源

狩野友信(※1)が母の曾祖父になります。やはり母は絵が好きで5歳くらいから絵画教室に通っていました。教科書に載っている狩野派の血が流れているというのは聞かされていましたが人に話したこともなかったので周りは全然知りませんでしたね。大学では日本画を専攻したのですが、絵だけで表現し切れなくなって来たというのかな・・・映像に興味を持って二年の時にTVCMの制作会社にアルバイトで入りました。卒業製作で実験映画(※2)を2本作り、映像の仕事がしたいなと思ったけれど当時の邦画があまり面白くないので映画に行きたいとは全然思わなかった。そのままCMの制作会社に就職。一年後大手制作会社を辞めた人達が川崎徹(※3)さんと作った会社に移って城南高校のすぐ向かい側のオフィスに通っていました。担当した仕事はプロダクションマネージャー、映画でいう「制作」ですね。80年代というのはまさに広告業界全盛の時代。一人で6~7本のCMを担当して、1本のCMに最低100人のスタッフが関わっている。当時は携帯なんてないし、ようやくFAXが入ったくらいの頃で本当に忙しくて凄まじかった。自分の時間なんてまったくない。バイクで15分の家に帰れないんですよ。仲間が突然死、過労死なんて珍しくなかった。オーバーワークだったんでしょうね。私も交通事故に遭って4ヶ月の入院をして全治1年半という大怪我をしてしまったんです。

狩野派というと室町幕府から足利義政に仕え、織田信長、豊臣秀吉、徳川将軍とどの時代も為政者の御用絵師として日本絵画史に君臨した一族、将軍の威光を高める豪華絢爛な障壁画などは日本史の教科書などで誰もが知っているだろう。中でも狩野さんは浜町狩野という奥絵師(※4)の流れを汲む。大家の末裔ということで和装のご老人をイメージするというこちらのなんと稚拙な先入観を見事に裏切って目の前の狩野さんはまるでドラマに出てくる広告クリエイター役の俳優さんのような方だった。実際広告業界で活躍されていたというプロフィールに驚きながらお話の明瞭さ、簡潔さに当時の手腕が想像できた。皮肉にも事故によって激務から開放された時、ガラス工芸と出会う。

大学の時に友人のお父さんが版画家の吉田穂高(※5)さんでよく遊びに行っていたんです。趣味でガラス工芸をしていてそれがパート・ド・ヴェール(※6)という技法だった。それまでガラスは工場で職人さんが作るものと思っていたので個人で扱えることに驚きショックだった。そのことが脳裏にあったんでしょうね。あまりに忙しくて自分に向いてる職業じゃないなと感じていた矢先の事故だったから、退院してなぜかその時にふと思いついて6、7年振りに訪ねて行ってガラスの教室を紹介してもらったんです。2週間体験して瞬間的にこれだなと感じてやることを決めました。この技法は手間隙掛かる、生産性が悪い、やっている人もほとんどいない。世の中大量生産大量消費と、生産性を高めることに必死になってどんどんバブル景気に向かっていったから時代に逆行するにはこれしかないと思った。逆に行ったら必ずそれが先端になる時が来るとしていました。パート・ド・ヴェールはすごく単純な技法なんです。粘土で作った型を耐火石膏で形とって粘土を取り出し空洞になった石膏の中にガラスを詰めて溶かす。ある意味鑄造ですね。それが造形的にいるんなものが作れる、だからこそ可能性がいっぱいあると思った。



「ガラスで食っていく自信なんてなかったけれど、評価してもらってお金に変えなきゃだめだと思っていた」という狩野さん。しかし始めて数年で空間プロデューサーなどに作品は売れていったというからやはり芸術を職業にして昇華される血脈はすごい。数々の賞を受賞、展覧会も精力的に開催される。大きな作品を作りたいという思いから結婚を機に山梨の上野原に大きな工房を持った後、東京で仕事場を探したがまったく見つからず1年過ぎた頃偶然現在のお住まいに出会い工房と教室を作った。



アトリエの外観

24,5歳くらいから当時の日本のトップのクリエイターの方々と相手に仕事をしたおかげでいいものを作ることがどういことなのか学んだし、物事がどういうことか瞬時に判断するようにCMの世界で鍛えられているから、その辺がすごく役に立っていますね。そのおかげでしょうね。

今作っている作品は「0ゼロの立体化」。タイトルはまだ決まっていなくても2012年にはその状態を作り出すというのが目的で東京、京都で展覧会を開こうと思っています。「無」というのがキーワード。無心になるということが創造することの根源だと思っています。極端なことを言ってしまうと創造する、クリエイションするということは人間本来の使命で、そうすると無の状態になれる。それが自分をチューニングすることになっていたり・・・今の自分の作品というのはその状態に自分になるということ。作品を見た人がその状況を疑似体験する、見た方にも伝わるんですよ。毎日これだけやっていたら早いんですけど、ライフワークをやりながら生活のためにライスワークもやらなきゃいけないしなかなかね(笑)。

この町は昔の向こう三軒両隣、みんな仲良し。近所付き合いしていますよ。向かいの家に上がり込んだり、おかずができるもって行ったり。下町の人情があるところです。麻布一本松狩野というのが古地図で見るとすぐ近くだったんですね。すごくご縁があるんだと思います。呼ばれているのかな。麻布ってもともと職人の町だったと言われていて物を作る人がたくさん暮らしていたのでなんとなく土壌があるんですね。

教室で「教える」というのはその人を伸ばすためにどうするかということがいちばんなので難しいですよ。人それぞれ価値観が違うわけだから作品が良い悪いなんてすごく難しい。狩野派には粉本という写しの教科書のようなものがある。画塾というところへ通って勉強するんです。松はこう、岩はこうと決まり事を習得していく。お手本もある世界もあるけれどしっかりと基礎を身につけて、見たことがなかったもの、それでいて素晴らしいものを生み出さないと・・・放っておく？(笑)。その人を見てあげて幸せになるような環境を作ってあげないと。みんな一生懸命やって喜んでくれる、そういう場所をここで提供できていれればいいですね。



作品「0ゼロの立体化」制作の様子



ガラス工芸教室の様子

一階の教室は高い天井が気持ちよく生徒さん達が実に楽しそうに創作されていた。棚に並んだカラフルなビンや着色用のガラスだそうでポップな感じが教室の明るい雰囲気とぴったりと合う。二階のご自宅も暖かい色合いの床、適度な間隔で置かれたアート作品、民芸品、明るいオープンキッチン、手入れされたグリーン・・・完璧な居住空間に圧倒されていると極めつけに美人画から抜け出たような着物姿の奥様が出ていらした。空間の演出の見事さは遺伝子レベルの刷り込みなのかと溜息。狩野派の再興を望む声があると聞いたことがある。しかし元麻布でしっかりと狩野派は継承されていた。

- ※1 幕末-明治時代を生きた最後の奥絵師。明治19年より東京美術学校設立(現東京芸大)助教授。
- ※2 表現技法を実験的に試みた映画。ここでは視覚的なものを実験したものの。
- ※3 70-80年代と活躍したCMディレクターで数々のヒット作品を生み出した。
- ※4 将軍に直接謁見できる旗本格の高い地位を持った。江戸初期の探幽の三兄弟から始まる木挽町、鍛冶橋、中橋、浜町とこれらの狩野家が奥絵師。表絵師は御家人格。奥絵師の補佐をした。
- ※5 昭和後期-平成時代の版画家。父吉田博(洋画家・版画家)母ふじを(水彩画家)。
- ※6 耐熱性のある鑄型にガラスの粉を敷き詰め、炉に入れて熔融成形する。紀元前16世紀頃にメソポタミアで考案されたガラス工芸技法。ガラス粉末に、糊料を加え練ったものを型に詰め、そのまま窯の中で焼き上げ、冷却後仕上げのガラス成型法のこと。またガラスの色を自由に調整し、細かい部分にも自在に発色させることができるため、極めて表現豊かな作品を作ることができる。



## 南麻布さんぽ 後編 ほんむら 仙台坂上～旧麻布本村町界隈を行く

「南麻布さんぽ」の後編は、ちいばす「麻布ルート」でアクセスもよくなった仙台坂上から出発です①。六差路の交差点を、坂を背に右に曲がると氷川神社や安藤記念教会など元麻布のスポットがありますが、今回は左に折れ、本村保育園前の通りに進みます②。昔ながらの建物やお寺、斬新なデザインの住宅があったりと、通り沿いの景色を楽しみながら③、本村公園まで行きます。本村公園では、木陰のしたで日差しを気にせずゆっくりと遊べます④。

公園脇の坂は下った後また上る奴坂⑤、緩やかなカーブの細道の先、本村小学校を敷地沿いに左に曲がります⑥。校庭の角をまた左に折れ、子どものにぎやかな声を聞きながらのんびり進むと、右側に急な下り坂が現れます⑦。冒険心にまかせて坂道を慎重に下り終え、マンションの間に隠れていた緑、背の高い木々のアーチが心地よい薬園坂緑地に着きます⑧。広くはありませんが、まさに都会のオアシス、木々を通る柔らかな風に癒されます。「四ノ橋方面」という標識⑨に従い住宅地のほうに進みますが、緑地右方面には港区教育委員会の案内

板があり、この地域が「本村町貝塚」であるとの説明が書かれています。「本村町貝塚」は縄文時代前期の貝塚で、多くの貝殻や土器が出土しているとのこと。この地に古くから集落があったことを知り、改めて麻布の奥深さを実感する場所です。

薬園坂緑地を直進し、路地をぬけると⑩曲線の壁が美しい「イラン・イスラム共和国大使館」、そしてさんぽの終点、四の橋交差点に到着します。ここからはバスで移動できますし、四の橋白金商店街で買い物をして帰ってもいいですね。二回にわたり紹介した「南麻布さんぽ」、暑さがおさまり過ごしやすくなったこの時期にぜひ巡ってみてください。



(取材/浅川一枝、高柳由紀子、大澤佳枝、鈴木敏江、鈴木美砂 文/鈴木敏江)



「自分が行けるから旅の雑誌をつくりました。」  
つくりたいものをつくり続ける  
雑誌コヨーテ編集長  
新井敏記さん

世の中にはいろいろな仕事があります  
雑誌  
編集者

## 子どもに生きていく力を 親子で 読んでみよう KIDS! ハローワーク

自分の好きなことを多くのの人に伝えるのが喜び



社屋は西麻布2丁目、長谷寺に隣接。ライブ感あふれる職場、イベント会場もかねるブックカフェ、眺めのよい屋上など、見どころいっぱいでした。

今回のテーマは雑誌編集の仕事です。西麻布にある雑誌出版社スイッチパブリッシングを訪問し、旅行雑誌「コヨーテ」編集長の新井敏記さんにお話をうかがいました。

😊 ジュニア編集員は大智くん(7歳)、響ちゃん(10歳)。各階を案内いただき、何だか楽しそう(?)な職場の雰囲気を感じました。地下には「ブックカフェ」も併設されたこだわりの社屋でした。

### 雑誌の編集とは、どういうお仕事ですか?

好きなこと、音楽、映画などの興味のあるジャンル、出会った素敵な人の魅力を「多くの人に知ってほしい!」という思いで雑誌をつくっています。俳優へのインタビューであれば、映画やテレビには映らないもう一つ別な魅力を引き出し、ミュージシャンを紹介するときには、例えばCDを作る際、どんなふうにも音が生まれ、どうやって詩を伝えていきたいのかなど、インタビューを通して掘り下げていきます。

### このお仕事につくきっかけは何でしたか?

子どもの頃からとにかく「書くこと」が大好きでした。日記の延長線上で自分の思いを書き、友だちに読んでもらっていました。中学時代にはガリ版刷りで手作りの雑誌を配っていました。基本的に今も、やっていることが、変わらないのですよね。手書きだと読みにくいので、だんだんタイプを使い、ときにアルバイトをして活版印刷で雑誌を作っていました。無意識のうちに伝えるための方法を模索していましたね。



(上)  
1階は「郵便局をイメージしたしつらえのメール室でした。」  
(下)  
新井さんはやはりインタビュー上手。ジュニア編集員から、母親も知らなかった旅のエピソードを引き出していました……

### どうしたら編集者になれますか?

資格はいらないし、学歴も関係ないです。そのかわり、好きなものを見つけることです。出版社で働くことで、編集制作、デザイン、広告営業まで、幅広い現場を体験することになります。

### 今までですごくうれしかったのはどんなことでしたか?

俳優緒形拳さんに対して、取材の最中、出演したある映画がつまらないと正直に伝えてしまったことがあるのです。今思うと無礼ですよ。失言です。インタビュー終了後、時間があるならと彼の自宅に連れて行かれました。てっきり怒られるかと思って覚悟していましたが、俳優と映画の関係について改めて個人的に語ってくださいました。「映画は育てるものでもあると、だから俺は出る」と、その上で、「君は生意気だが、本気で俳優の取材をする気があるなら」と、別な俳優まで紹介してくださいました。その結果として大変充実した俳優特集が実現できたことを思い出します。

### 雑誌編集者を目指す後輩へアドバイスを。

「遊べ!」と言いたいのです。とにかく好きなことを徹底的にやるといいと思います。私自身、全く模範的な子ではなく、悪ガキでしたから。

😊 ガリ版刷りに熱中していた少年時代の延長で雑誌出版社を立ち上げ成長させた新井さんは、自然体の起業家でもありました。まずは宿題の自由研究から「好きなテーマ」にチャレンジしてみよう……と思うジュニア編集員でした。

(取材/石山恒子、鈴木敏江、鈴木大智、大村公美子、大村響 文/大村公美子)



モルディブ共和国  
 面積： 298平方キロメートル（淡路島の約半分）  
 人口： 30.9万人（2008年）  
 首都： マレ（マレ島人口：10.4万人）（2006年4月）  
 民族： モルディブ人  
 言語： ディベヒ語  
 宗教： イスラム教  
 政体： 共和制  
 元首： モハメド・ナシード大統領  
 議会： 一院制（議席77：小選区制）  
 外務省ウェブページ  
<http://www.mofaj.go.jp/mofaj/area/maldives/index.html> より  
 ※本文では、首都は「マレ」と表記しています。

特命全権大使： アハメド・カリール  
 取材協力／駐日モルディブ共和国大使館



大使を訪ねて ⑭  
 麻布の"世界"から



# Maldives

地球温暖化の危機に直面する地上の楽園



人口約30万人のモルディブ共和国は、インド大陸の先端に位置している。多くの日本人は新婚旅行に人気の国としてご存知のことだろう。恥ずかしながら、リゾートとしては知っていたが「なぜ新婚旅行？」と疑問に思っていた取材陣に、アハメド・カリール特命全権大使が丁寧に答えてくださった。

モルディブ共和国には約1200の島があり、その200に人が住んでいる。ひとつの島にひとつのリゾートというコンセプトで観光に力を注いでおり、リゾートがある島には基本的に住人はいない。つまり、リゾートを選ぶ＝島を選ぶことになる。当然島への交通手段は限られているため、パパラッチも追ってこない。セレブでも安心、100%プライバシーが守られた休暇を楽しむことができるというわけだ。

もうひとつ素朴な疑問があった。モルディブは、日本人になぜこんなに良く知られているのだろうか？リゾートとしてはハワイと並ぶほど名が知れている。それはモルディブと日本の昔からのつながりが関係している。観光と並んでモルディブが力を入れているのが漁業。豊かな海に恵まれているが、長い間、古典的な漁法を用いていたので産業としては伸び悩んでいた。そこに日本の技術が持ち込まれ、古典的な漁船に近代的なエンジンをつけたことで効率が一気に上がった。取った魚を加工して輸出する技術も日本から学んだ。また学校の80%が日本からの支援で建てられているので、国民のほとんどが小さい時から日本に親しみを持っている。さらに、モルディブ全土で120名が犠牲になった2004年の津波被害では、日本が建設した防波堤により首都マレの人々が大きな被害を免れたことも、日本を身近に感じる理由のひとつとなった。

日本固有の食品とされている鰹節も、実はモルディブが原点らしく、日本に多く輸出されている。もっともモルディブでは削ってお味噌汁の出汁にするのではなく、細かく刻んでカレーに入れて食べる。鰹節だから、出汁のよきいた日本人にもうけそうなカレーなんだろうと思わず味を想像した。言語にも共通点があるそうだ。モルディブ共和国で話されるディベヒ語は、日本語と語順が似ているため、大使ご自身も、最初は英語で日本語を学んでいたが、途中で母国語との共通点を多く見つけると、非常に学び易くなったという。



日本にも多くのファンを持つモルディブだが、今危機に直面している。朗らかに笑いを交えながらお話しをしてくださった大使が、この話題になると真剣な表情になった。地球温暖化の影響で水位が上がり、島々が沈んでいるのだ。モルディブの平均海拔は1.5メートル。すでに6つの島が沈み、来年にはさらに16の島が沈んでしまうという。人々はやむを得ず他の島に移り住んでいるが、住みなれた場所を離れるのは容易ではない。

「地球温暖化問題は、将来のものではなく今現実に起こっているのです。各々の国の事情により、世界がひとつになって協力することは容易ではありませんが、私はそんなに悲観していません。必ず世界の国々が一致団結して問題解決に取り組む日が来ると確信しているからです。なぜなら、例えばモルディブが沈んでも、この問題は解決しないからです。モルディブが沈めば、海拔1.5メートルの土地は、他の国でも沈むこととなります。アメリカの10%、そしてエジプトやバングラデッシュの国土も大幅に失われるでしょう。世界は協力せざるを得なくなるのです」。今現在、その危機に立ち向かっている国だからこそ言える力強い言葉が心に響いた。

- ① モルディブ共和国の国章とディベヒ語、英語、日本語の表記
  - ② 美しいモルディブの島々。ひとつの島にひとつのリゾートというコンセプトで世界中の人々を惹きつける。
  - ③ 首都マレ。防波堤が津波から都市を護る。
  - ④ 漆の工芸品
  - ⑤ インド洋に繰り出した伝統の船
- (写真 ②③ photographer Brian Knutsen)

(取材／加藤智恵、石山恒子、森 明 文／加藤智恵)

# Azabu-nista

麻布に暮らす外国人レポート



ウェスティンホテル東京 副総支配人 Hotel manager

## Frank Bochmann

## 料理とは、エンターテイメント・学び・芸術



フランク・ボックマンさんはオーストラリア生まれ。南麻布・二の橋交差点の近くに居を構えたのは2年半前になります。南麻布に住むことになったのは、現在の職場の上司に勧められたことがきっかけで、麻布周辺には日進ワールドデリカテッセンをはじめとした世界各国の食材を扱うお店がたくさんあることがフランクさんにとってとても魅力的です。

アデレードで育ったフランクさんは、シドニーで料理の腕を磨き、ヨーロッパ各地のさまざまな企業で8年間経験を積んだのち、シェラトングループでは総料理長としてシェラトンフィジーの立ち上げに携わりました。そこでの経験を買われて、料飲部のマネージャーを任されることとなります。その後はインドネシア、上海、シンガポール、カンボジアなど多様な国で料飲部の総責任者を務め、転職をきっかけに来日。現在はウェスティンホテル東京の副支配人としてご活躍になられています。

そんなフランクさんの趣味はやっぱり料理を作ること。お料理のお上手なおばあさんの影響で、もともと料理を作るのが大好きだったフランクさんは、趣味を職業にした羨ましいご経歴をお持ちです。

フランクさんは料理を作りながら音楽を聴くのが好きで、ソフトジャズやショパンをはじめとしたクラシックなど様々なジャンルの音楽からインスピレーションを得るロマンチックなシェフです。フランクさんにとっての料理とは、エンターテイメントであり、学びであり、芸術であり、何よりも生活に欠かせないもの。

麻布周辺にはフランクさんのお気に入りのレストランがたくさんあって、お寿司、天婦羅、イタリア料理、フランス料理、中国料理と食べることも経験豊富です。

そんなフランクさんが作ってみたい日本の食事はカレーライス。

さまざまな食の経験をつんだシェフが作り上げるカレーライスを一度味わってみたいですね。

フランクさんの日本の印象は、ソニー、パナソニックやニコンに代表されるような発明家の多い魅力的な国。東京近郊に住む友人と一緒にお酒を飲むことも好きなので、終電がもっと遅くまで運行してくれたらいいのに、というのがささやかな願いです。



(上) pavlova (メレンゲのケーキ)  
(下) エビのサラダ  
ともにフランクさんの作品

(写真提供/フランク・ボックマンさん)

(取材/福本綾子、森角香奈子 文/福本綾子)

### 地域社会のゆくえ

5

エコライフ・フェアMINATOに参加する

## 麻布の清掃協力会女性部の活動

～ 赤坂・青山と共に～

世界中、ゴミの問題は深刻です。20年以上前から麻布清掃協力会と赤坂・青山清掃協力会の女性部は、合同で家庭から出るゴミの問題に取り組んできました。長年、活動に携わっている麻布清掃協力会の女性部長(日ヶ窪親和会)、原田保子さんにお話を伺いました。

### まずは、ゴミの減量から

「昨今は『エコ』、『3R運動』とさかんに言われていますが、清掃協力会の女性部では、ゴミを出さない努力をしましょう、分別しましょう。家庭に眠っている品物の再利用、再使用を積極的に」と、20年以上前からゴミの減量に取り組んできました。

例えば、家庭にストックしたままの小物・雑貨類を有効利用できるように、町内会の協力も得て、有栖川宮記念公園でバザーを開いてきました。エコライフ・フェアMINATOが毎年5月に開催されるようになって、両清掃協力会は、リサイクルバザーとして、参加出店するようになりました。

### 盛況なエコバザー

町内会の協力を得て、ゴミで出せば可燃ゴミになる古着(新品同様に限る)をはじめ、小物雑貨類などを回収します。それらを仕分けし、値札付けから、エコライフ・フェア当日の販売まですべて女性部のボランティア活動で支えられているのです。リサイクルバザーの売上金は、港区社会福祉協議会に寄付しています。

今年のエコライフ・フェアでは環境関係の団体や企業のエコ活動を紹介する展示やモデル回収などが行われて大変賑わいました。

会場で回収したアンケート結果によると、「子どもと一緒に楽しめた」「資源リサイクルのことがよくわかった」「自分達に身近なエコ活動で、とても楽しかった」「これからもゴミ

を出さないように、気をつけたいです」など、少しずつですが効果は出ています。



「これからも清掃協力会・女性部は、地域の美化と、生活に密着した『3R推進活動』を実践していきます。是非ご協力ください」原田さんの明るい笑顔がステキでした。

### 地域みんなで3R

エコライフ・フェア当日は、港区3R推進行動会議も古着の回収を行っています。昨年に引き続き古着のモデル回収を行った結果、回収量が大幅に増えており、皆さんの関心の高さがわかります。

(取材・文/浅川一枝、高柳由紀子)



原田保子さん



2009年のエコライフの様子です(麻布地区総合支所提供)

**3R**とは  
リデュース  
Reduce (ゴミを減らす)  
リユース  
Reuse (繰り返し使う)  
リサイクル  
Recycle (資源として再生利用する)



港区リユースキャラクター



東側の外観。美術館内の樹木の緑とあいまって、爽やかな雰囲気をかもし出す。

西麻布2丁目、根津美術館の鬱蒼とした緑を背景に、一軒のグリーンの家が佇んでいる。カニングハム・メモリアルハウスがその名称だ。社団法人 青少年音楽協会（MUSIC FOR YOUTH, INC.）を創設し、音楽を通じて日本の子どもたちの情操を育んだ、アメリカ人女性、エロイーズ・カニングハムの生前の住まいである。現在は同協会の事務所として使われ、また建築的な価値も高く評価され見学者も多いと聞く。カニングハム女史の生涯と、亡くなる日まで過ごした家を取材した。

明治34年に2歳で来日し101歳で亡くなるまで、日本の若い人たちへのクラシック音楽の普及に一生をささげた情熱一途の人である

1899年ペンシルベニア州、宣教師であったカニングハム夫妻の長女としてエロイーズは誕生する。2歳のとき、伝道活動を行うために一家は来日。明治時代とあって外国人は珍しく、なじみの薄いキリスト教布教への風当りは強かったと思われる。しかし数々の困難を忍耐と努力で乗り越え、次々に教会を建て活動を広げた。両親のこうした姿勢は、エロイーズの人格形成に影響を与える。妹ドリスも生まれ、夏は軽井沢の家で過ごすのが習慣であった。当時、軽井沢は外国人の社交の場でもあり、楽しい休暇を過ごした。

音楽好きの母親の影響で、アメリカのハイスクール、大学で音楽を学び、ピアノを専攻した。帰国後、日本の子どもが、生のシンフォニーなどの音楽を聴く機会がないことを知り憂慮する。子どもが成長するのに音楽は不可欠なもので、というのがエロイーズの信念であった。この頃から、日本の若い人たちに音楽を通じて情操教育を行うことを使命と考えていたようである。スキルを高めるために再度アメリカにもどり、コロンビア大学で音楽教育学を学んだ。

そして1939年(昭和14年)40歳のとき、新交響楽団(NHK交響楽団の前身)と交渉して、ついに第一回コンサート「若き人々のための交響楽演奏会」を日比谷公会堂で開く。反響は大きく大成功をおさめた。戦後も「青少年音楽協会」という名の組織のもと、活動の幅を広げていく。コンサートの模様はNHKや民放ラジオでも放送されたというから、遠い記憶に留めている読者もいるかもしれない。そのプログラムの特徴は、子どもを飽きさせない、楽しめる工夫が凝らされている点であった。1954年(昭和29年)、青少年音楽協会を社団法人化し、青山学院初等部、学習院初等科、立教小学校、立教女学院、東洋英和女学院(小・中学部)、慶応義塾幼稚舎などを対象とした“ヤングピープルコンサート”と称する演奏会を、また目や耳の不自由な子のためのコンサートを行い、新人演奏家も数多く紹介する。日本で歴史の浅いクラシック音楽を、より多くの若い人たちに広めた意義は大きい。

ところで、協会のスタッフが増えようとも、プログラムづくりから出演者の手配、後援者への交渉などすべて自分で行った。プライベートでの人との交流は少なく、生涯独身を通す。エロイーズと活動を共にした人によれば、「心根はやさしいのに、間違ったことは許せず人との衝突も度々。信念を貫く姿勢は並大抵のものではありませんでしたね」。何事も自分の力でやり遂げる。まさに、両親から譲り受けた強さを一生の支えにしたのである。



(上) エロイーズ90歳代の頃。ピンクや赤などの鮮やかなスーツが好きで、常にみだしなみに気を遣っていたという。(写真提供/青少年音楽協会) (下) 演奏会ごとにエロイーズが手作りしていたミュージックノート。イラストにもセンスのよさがうかがわれる。

名建築家アントニン・レーモンド設計による家を活動の拠点に。大きな吹抜けに障子、木張りの壁。簡素な中ににじみ出る和の美しさを愛好した

1953年(昭和28年)54歳で、筈町(現西麻布)に自宅を建築している。旧チェコスロヴァキア生まれのアントニン・レーモンドの設計で、レーモンドの自宅兼事務所が近隣にあった。レーモンドといえば帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトの助手として来日し、そのまま日本で独立した名建築家である。その作品は枚挙にいとまがなく、港区ではほかにアメリカ大使公邸、カナダ大使公邸、聖オルバン教会などが現存する。レーモンドの和の美意識に彩られた簡素な作風は、日本びいきのエロイーズを魅了したに違いない。

“音楽を聴くバルコニーのある家”が希望だったといい、家の大半を占めるのが吹抜けのリビングで、二階の寝室との境の襖を開け放つと大きな空間になる。柱や梁、合板などの構造材をむき出しにし、窓には障子をあしらった和洋折衷のデザインである。窓の外には根津美術館敷地内の植栽の緑が広がり、エロイーズが幼少期に過ごした軽井沢の別荘地のような静謐な佇まいだ。仕事一途の日々とはいえず、この家は心に深いやすらぎをもたらしたであろう。後には、レーモンドの弟子、吉村順三に依頼し、軽井沢に音楽の合宿ができる『ハーモニーハウス』を私財を投げうって建てている。

家は協会に寄付され、遺言によりリビングルームがコンサートの会場ともなって子どもから大人まで広く親しまれている

1987年(昭和62年)米寿を迎える年、長年の功績が認められて勲四等瑞宝章を受章し、1999年(平成11年)には100歳祝賀、青少年音楽協会60周年記念シンフォニーが日比谷公会堂で行われた。そして2001年(平成13年)、愛するわが家にて生涯の幕を閉じた。

現在も活動は盛んだ。教会やハーモニーハウスでの演奏会、バレエの公演をはじめ、カニングハム・メモリアルハウスでのサロンコンサートは年に4回ほどのペースで行われている。大人も鑑賞できる。筆者も昨年のクリスマス・サロンコンサートに参加したが、演奏の後には全員でクリスマスソングを合唱したり、茶菓子付きで飲み物がふるまわれたりと、アットホームでくつろげる雰囲気が印象的であった。



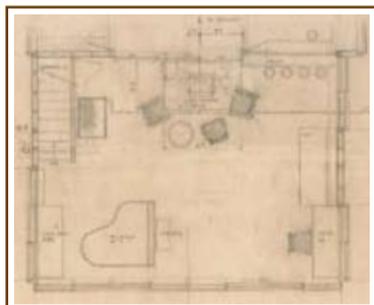
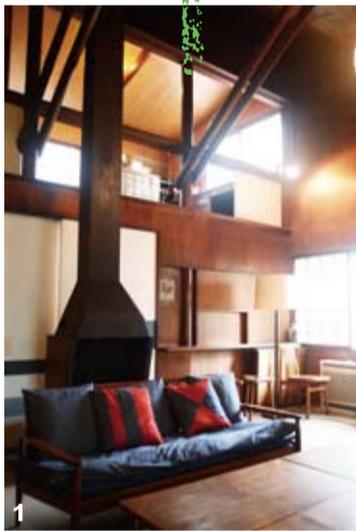
エロイーズの目指した豊かな音楽にふれる時を提供する活動は、この麻布の地で、確実に受け継がれている。

歌とリコーダーアンサンブルによる子どものためのサロンコンサート。会場が一軒家なので、リラックスして楽しむことができる。(写真提供/青少年音楽協会)

取材協力/社団法人 青少年音楽協会 レーモンド設計事務所  
参考文献/「エロイーズ・カニングハムの家」下重暁子(白水社)  
「住宅建築1997年11月号」(建築資料研究社)

(取材/大澤佳枝、倉石哲良、高柳由紀子、田中亜紀 文/田中亜紀 タイトル/高橋 光)

麻布の軌跡  
カニングハム・メモリアルハウス



(上) 表札のスケッチ。  
(下) リビングの図面には家具、ピアノの配置も書かれている。(資料提供/レーモンド設計事務所)



2



4



3

- 1 暖炉を囲んで、何度もミーティングが開かれたことであろう。2階が寝室だった部屋で、まさにリビングを見下ろすバルコニーのようである。
- 2 ほの暗い木のしっとりした趣に満ちたリビング。家具はレーモンドやノエミ夫人がデザインしたもの。
- 3 丸太を半分に使って個性的な意匠とするのは、レーモンド・スタイルの特徴。レーモンドの住宅を都内で見られるとして、エロイーズの時代も現在も、建築士や建築愛好家の見学の申し込みが多いという。
- 4 根津美術館から西麻布交差点に向かう道の坂下、築地塀の途切れたところにある。



# Living in AZABU

“さて、今年の秋は in 2010。”

秋がやって来ましたわね。  
 ウチのおにいちゃんネコは（名前です。）  
 寒いシーズンにそなえて  
 フワフワの冬毛の用意をしています。  
 私もお気に入りのグレイのラムウールの  
 カーディガンを今年も愛用中。

食欲の秋。ミセスMからおうちで買った  
 見事な柿を二度もいただいた。  
 ラティスのドアもとってもすてきなエントランスの  
 麻布のお庭のいい柿

秋はマロンもね。  
 ペーストや和栗のむいたのや。  
 あ～おいし～い。

“読書の秋”もぜひ。  
 丸山 薫さんのアモイ湾の詩 等を  
 しみじみと読み返してみよう。  
 超あこがれのあの方(♡)が  
 新しいご本をお出しになった。  
 サア、本屋さんへ急がなくちゃ♡

秋の一日 お散歩もね。  
 三河台公園のパーゴラの下で  
 ひとやすみしたら、  
 澄んだ高い秋の空に浮かぶ雲なんぞを、  
 見てみよう。  
 つたの葉っぱも きれいに秋色に染まって。

秋のおたよりもたくさん書こう。  
 FLORIDAやHAWAIIやPARISにも  
 THE AZABUをおくろう。  
 “だって、英語版”が出るもの

どうぞ ことしもいい秋をお過ごし下さいね。

(イラストレーション・文/湊 早苗)

## 麻布地区総合支所は、地域のさまざまな課題について、区民の皆さんの立場で、ともに考え、ともに解決に取り組んでまいります

### 麻布地区地域事業について

前号に引き続き今回は、麻布地区総合支所が独自に実施する12の地域事業のうち、「子育て支援」「おもちゃライブラリー」「麻布ものしり認定制度」の3事業をご紹介します。

※これまでの号では、(1災害時セーフティネット構築事業/2安全・安心に特化した公園づくり/3子ども芸術ふれあい事業/4麻布未来写真館/5国際協働事業/6麻布フェスタ/7飯倉片町地下横断歩道 小学生児童絵画展示事業/8コミュニティ形成事業/9福祉会館等施設情報紙の発行)をご紹介します。

#### 10 子育て支援

##### 【事業化に至った課題認識】

核家族化やコミュニティの希薄化、ひとり親家庭の増加などを背景に、子育て世帯における養育環境は大きく変化しています。そのため、地域の子育て世帯に対してきめ細かな情報提供をする必要があります。

##### 【事業の内容】

託児所のある施設や、子どもと行けるレストラン等、幅広い情報を掲載した冊子を編集し配布しています。



子育て便利帳  
 (乳児編)「ヨチヨチ」  
 (幼児編)「ススク」

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画			
		21年度	22年度	23年度	計
乳児編 (0・1・2歳編)		-	-	-	
幼児編 (3・4・5歳編)	乳児編作成 1刊	幼児編作成	-	-	幼児編作成
児童編 3刊		-	児童編作成	-	児童編作成 2刊

#### 11 おもちゃライブラリー

##### 【事業化に至った課題認識】

「乳幼児用のおもちゃは、使用期間が短いのに高価で、購入し難い」との利用者の声が多くあり、良質なおもちゃの提供と普及が課題となっています。

##### 【事業の内容】

児童館で使用する良質なおもちゃを乳幼児親子に貸し出したり、講演等による保護者への啓発活動を行います。乳幼児に安心して与えられるおもちゃを通じて、豊かな情操を育むための支援をします。

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画			
		21年度	22年度	23年度	計
実施2か所	実施1か所	実施2か所	実施2か所	実施2か所	実施2か所



#### 12 麻布ものしり認定制度

##### 【事業化に至った課題認識】

コミュニティ活性化のためには、地域の課題を自ら解決する、地域の中核となる人材の活動機会を増やしていく必要があります。

##### 【事業の内容】

麻布地区の歴史や文化及び産業等を学んでいく講座やワークショップを通じて、地域に精通したコミュニティの担い手となる人材を幅広く発掘・育成していきます。



(通称)「あざぶ達人倶楽部」初級講座の様子

計画目標 (23年度末)	現状 (20年度)	事業計画			
		21年度	22年度	23年度	計
認定者90人	-	開講・実施 認定者30人	実施 認定者30人	実施 認定者30人	認定者90人

(終了)

## 読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてほしい情報など、何なりとお寄せください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。



ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」プレゼント!  
 「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。  
 ●電話で .....03-5114-8812 (月～金/午前 8:30～午後 5:00) ●ファックスで .....03-3583-3782  
 ●郵送で .....〒106-8515 港区六本木 5-16-45 港区麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛



# 港区麻布地区 総合支所だより

## 総合支所からの お知らせ

### 平成22年度港区総合防災訓練 (麻布会場)にご参加ください!

どなたでも参加できます

麻布地区総合支所では麻布消防署、麻布警察署などの関係機関と協力して、港区総合防災訓練(麻布会場)を開催します。

今後30年以内に南関東で直下型大規模地震が発生する確率は70%と言われています(地震調査研究推進本部が発表)。大地震から自らの生命と自分たちのまちを守るために、家族や事業所の皆様で、総合防災訓練に積極的に参加しましょう。

参加された方には記念品を差し上げます。

日時/10月17日(日)午前9:30~11:30  
※午前9:30までに訓練会場にお越しください。  
※雨天中止です。  
会場/港区立六本木中学校(六本木6-8-16)



#### 申し込みについて/

- 事業所等団体での参加を希望する場合は、事前に参加人数をご連絡ください。
- 個人や家族での参加を希望する方は、事前の申し込みは不要です。直接会場にお越しください。



煙中避難訓練の様子



初期消火訓練の様子

お問い合わせ/  
麻布地区総合支所協働推進課活動推進係  
電話/03-5114-8802

## 都税事務所からの お知らせ

### 都税についてのお知らせ

9月は固定資産税・都市計画税第2期分の納期です

6月にお送りした納付書により、お近くの金融機関・郵便局・指定のコンビニエンスストア、または都税事務所の窓口で、

**9月30日(木)までにお納めください。**

お問い合わせ/  
港都税事務所/電話03-5549-3800(代)

納税には、安心して便利な口座振替がご利用できます

詳しいお申込方法は、下記までお問い合わせください。このほか、金融機関・郵便局のペイジー対応のATM、インターネットバンキングやモバイルバンキングでも納付できます。ぜひご利用ください。

口座振替のお問い合わせ/  
主税局徴収部納税推進課口座振替係  
電話/03-5912-7520

## 麻布警察署からの お知らせ

### オウム真理教による犯罪行為により被害を受けた方、ご遺族に給付金が支給されます

申請期間/平成22年12月17日(金)まで  
やむを得ない理由により、この期間内に申請をすることができなかったときは、その理由のやんだ日から6月以内に限り、申請をすることができます。

次の方々がお給付金の支給の対象となります

オウム真理教による犯罪行為により(地下鉄サリン事件、松本サリン事件その他法律で定められた事件に限り)ます

- 亡くなられた方のご遺族
- 障害が残った方(既に亡くなられている場合、そのご遺族)

## 麻布消防署からの お知らせ

### 火災予防ブルーマン 特別イベントの観覧者募集

麻布消防署では、秋の火災予防運動行事として毎年開催している「火災予防業務功労表彰式」と併せ「火災予防ブルーマン特別イベント」を開催します。

ブルーマン特別イベントの観覧を希望する方は往復はがきに必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

日時/11月2日(火)午後2:00~4:00

場所/六本木ブルーマンシアター(六本木5-11-2)

内容/①火災予防業務功労者表彰式  
②ブルーマンによる火災予防特別イベント

定員/300人(応募多数の場合は抽せん)

申し込み/往復はがきで、往診裏面に住所・氏名(2人まで)・電話番号を、返信表面にご自宅の住所・氏名を記入のうえ、10月11日(月・当日消印有効)までに、

〒106-0046港区元麻布3-4-42麻布消防署へ。応募はがき1枚につき2人まで入場できます。

お問い合わせ/麻布消防署防火管理係  
電話/03-3470-0119

●傷病を負った方(既に亡くなられている場合、そのご遺族)  
※給付金の支給の要件、申請手続きなど、詳しくはお住まいの各都道府県警察の本部にご相談ください。

都内にお住まいの方のお問い合わせ/  
オウム真理教犯罪被害者相談ダイヤル  
電話/03-3581-5220  
(平日午前8:30~午後5:15)

平成22年  
秋の全国交通  
安全運動実施中  
(9月21日~9月30日)



安全運転にご協力をお願いします

麻布の区民参画……連載③ 語り合い、ともに麻布のまちを住みよくしていきませんか  
区民の皆さんとの「参画」と「協働」の取組みについて前号に引き続きご紹介いたします。

#### ■麻布を語る会「地域情報の発信」分科会

【活動内容】本紙「ザ・AZABU」の編集・企画  
今は何をやっているの?  
2ヶ月後のvol.16発行に向け、取材等の準備をしています。

#### ■麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会

【活動内容】将来に残し、伝えていくべき今の麻布の写真撮影や古写真の収集  
今は何をやっているの?  
新たなメンバーを加え、まち歩きによる撮影や、年間の活動計画(パネル展・ワークショップ等)の検討を始めました。

#### 古い写真を探しています

どのようなものでも結構ですので「麻布地区の古い写真」を募集しています!  
ご提供いただいた写真は複製のうえ、記念品とともにご返却いたします。  
詳細については下記までお電話ください。

#### ■麻布を語る会「基本計画協働推進」分科会

【活動内容】地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現を目指す「麻布地区版計画」の内容についての検証等  
今は何をやっているの?

新たなメンバーを加え、麻布地区総合支所が独自に行う12の地域事業の説明会や、テーマ別ワークショップなどの活動を始めました。

※各分科会とも随時メンバーを募集しています。内容については、お気軽に下記までお尋ねください。

お問い合わせ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策係 電話/03-5114-8812



まち歩きによる撮影の様子



### 編集後記

ありすの杜の、入居者と地域の住民や企業との間に壁を作らない在り方って、麻布そのものですね。住民がいて、大使館がいっぱいあって、繁華街があって、いろんなものを呑み込んで、それらが絡み合っていて味わい深いハーモニーを奏でる……そんな麻布の魅力をお伝えすべく、編集一同暑さに負けずがんばっています。(満木 葉子)

### 「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。  
年中無休/午前7:00~午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752  
Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service  
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.  
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp

## ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内  
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

- Chief 尾崎恭彦
- Sub Chief 石山恒子
- Staff 浅川一枝 倉石哲良 満木葉子
- 伊藤志織 鈴木敏江 湊 早苗
- 伊東みゆき 高柳由紀子 森 明
- 大澤佳枝 田中亜紀 森角奈奈子
- 大村公美子 西野さつき 山下良蔵
- 加藤智恵 福本綾子 鈴木大智
- Junior Staff 石山 茜 鈴木美砂

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。